

JOMF 派遣医師便り (2017. 11)

◆シンガポール◆

母乳バンク

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールには KK Women' s and Children' s Hospital という産婦人科、小児科、新生児科の専門病院があります。1858 年の創立で、現在 830 床で、約 500 人の専門医が働いており、シンガポールの公的中核病院のひとつとなっています。

今年 8 月、シンガポールでは初めとなる“母乳バンク”がこの KKHospital に設置されました。母乳には、免疫グロブリンなど免疫面や栄養面でも優れたところがあり、神経や視覚の発達にも良い効果があるとされています。そのため、特に新生児 ICU で有用性が注目されています。シンガポールでは毎年 350 名ぐらいが超低体重で生まれていますが、こうした場合には母体の健康状態などの理由から、母乳を提供できない母親も少なくありません。必要とする全てのお子さんに母乳を提供したいところなのですが、供給が足りず、実際は 80% が調整乳となっているのが現状です。

この母乳バンクでは最終的には 375 名ほどの母乳供給者を登録し、900 人の乳児に母乳を供給できる量を確保しようという計画です。制度の健全性、安全性が大切なことはもちろんですので、母乳提供者は予め厳格なスクリーニング検査（血液検査など）を受け、さらに、このシステムや母乳についての教育を受けることになっています。母乳を提供するに前に、自身で搾乳した母乳の扱い方、適切な一時的保存方法など、母乳の扱い方もしっかりと教育されます。提供者が直接、子供に母乳を与えるわけではありません。提供された母乳は国際的なガイドラインに沿って感染症の検査など、適切な処理を行ってから実際に必要とする子供に与えるようになっています。

他の外国に目を向けますと、こうした制度はアメリカ、イギリス、ブラジルなどでは既にかなり進んでいるようです。日本でも、“もらい乳”を行っている例は少なくないようなのですが、制度としてきちんと行っている施設はごく一部にすぎません。

現在、この制度の対象となっている病院はこの KKH のほか 2 つの公立病院（Singapore General Hospital, National University Hospital）だけですが、この制度がうまく軌道にのれば、さらに多くの施設で行われることになると思います。